

平成29（2017）年度「住まいとコミュニティづくり活動助成」中間報告

団体名

希望と笑顔のこすもす公園

活動のテーマ

子どもたちに希望と笑顔を贈る公園整備活動

活動の対象地域

岩手県釜石市を中心とした沿岸地域（宮古市～陸前高田市）全域

活動地域の概要

私の住む甲子地区に、震災後、たくさんの人たちが避難してきて、17か所約1,000戸の仮設住宅が建ち、5か所あった公園・運動場が優先的に仮設住宅用地に使われ、子どもたちの遊び場が無くなった。

私はこれを憂い、3000㎡の休耕田があったので、ここに私設公園を造ることを考え、ボランティアの人たちの力もあり、一年かけて完成した。

震災時は、津波の後遺症で夜泣きをする子、突然奇声を上げたり突発行動をとる子どもが沢山いた。

また、死の淵を経験した子どもたちがこの近くに避難してきていることを知り、まず子どもたちを元気にしないと、親が、地域が元気にならないと思い、子どもたちの笑顔を増やそうと手づくり公園を造った。

公園で遊ぶようになり、親たちから「夜泣きしなくなった。」など、子どもたちの精神が安定してきたことを聴き、公園をつくってよかったと思っている。

しかし、震災後6年経過しているが、現状は未だ仮設団地が解消されず、公園が一つも復活していなく、この希望と笑顔のこすもす公園の役割は大きい。

団体設立経緯

2011年3月11日の東日本大震災時、私は妻と一緒に津波がきた場所に向かっていたが、その手前で激震に遭遇し、即避難して生き組に回った。

私は、生かされた者として何か皆のために貢献しなければならないと考えていたところ、私の住む甲子地区に5か所あった公園・運動場が優先的に仮設住宅用地に使われ、子どもたちの遊び場が無くなった。

子どもにとって遊びは、成長過程の骨格を形成するばかりでなく、譲り合いやコミュニケーションなどの学習の場でもあり、被災した子どもたちの笑顔を増やすため、私有地を公園にして、多様なイベントや体験学習なども開催し、子どもたちの心を癒し、親子・地域間の交流を深めるなど、大震災の復興と地域の活性化に寄与することを目的とした任意団体「希望と笑顔のこすもす公園」を結成し、今に至っている。

活動の進捗状況と今後の予定

1 上半期の活動状況

① 安心して遊べる公園の維持管理

適正な公園の維持管理については、普通日は代表が見守り、休日にパートスタッフが遊具の点検や公園内の草取りなどの環境整備をしながら、遊んでいる子どもたちを見守りをした。

また、転んでも怪我をしないように公園内にはチップを敷きしめ（4月・8月）、お陰様で怪我をした子どもが一人も出なかった。

今年も、釜石市内は勿論のこと、宮古市から陸前高田市までの小学校、幼・保育園児たちが遠足等で、また、休日は遠方から家族連れが訪れ、半期で約3万2千人が来園した。



② 各種イベントの開催

子どもたちの心を癒すため、子ども向けのイベントを開催し、親子・地域間の交流を深める場づくりをした。

また、当初予定の子どもフェスティバルが代表が入院したこと等もあり実施できなかったが、その代替わりとして夏休み期間に小イベントを開催し、親子・地域の交流を図った。

- ・6月24日：キャンドルナイト
- ・7月27日：シアターステージ
- ・7月28日：川遊び
- ・8月04日：援奏会<にこにこ歌おうコンサート>
- ・8月06日：ネイチャーゲーム
- ・9月27日：色水遊び



③ 体験学習を通して子どもの健全育成

- ・ 7月13日、8月8日、8月18日：ピザ焼き体験
- ・ 8月07日：キャンプ体験



④ 遊具の改修

当初、遊具の改修は8月を予定していたが、当公園のシンボルでもあるすべり台の劣化が進み、昨年11月から使用禁止にしていたので、来園する子どもたちから「早く使えるようにしてほしい。」という声が多く、改修時期を4月に早め改修した。また、朽ちた前の滑り台の使える部分を活かし、幼児用のミニすべり台も設置した。



2 今後の予定

後半期は、冬季間ということもあり、来園者は上期より減少すると思うが、公園の維持管理については、上期同様、子どもたちが安心して遊べる場としての環境整備を継続して参りたい。

また、イベントも計画通り開催し、子どもから高齢者までが楽しく集える場としての活動を展開して参りたい。

- ・ 1月：餅つき体験
- ・ 3月：ひなまつり（ひな人形づくり）